

平成 27 年度 第 1 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

日 時：平成 27 年 4 月 30 日（木）14：00～16：30

場 所：琉球大学医学部附属病院 3 階がんセンター

出席者：9 名 樋口美智子（那覇市立病院）、島袋 幸代（沖縄県立中部病院）、

仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、佐渡山英子（県立宮古病院）、平良芳子（県立八重山病院）、

西田悠希子（ハートライフ病院）、上原弘美（豊見城中央病院）、當銘 由則（沖縄県がん患者会連

合会）、松岡栄二、増田昌人、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）、

欠席者：2 名 高良清健（友愛会ケアプランセンター）、石嶺彩香（県立南部医療センター・こども医療センター）

陪席者：6 名 宮良久美江（県立八重山病院）、古謝 （県立宮古病院）、神谷 八重子（沖縄県立中部病院）石郷岡美穂、井岡亜希子、井上亜紀（琉球大学医学部附属病院）

【報告事項】

1. 平成 26 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

協議に先立ち、資料 1 に基づき、平成 25 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨が承認された。

2. がん患者ゆんたく会について（1～3 月）

資料 2-1, 2-2, 2-3 に基づき、1～3 月に各拠点病院にて開催された「沖縄県がん患者ゆんたく会」について、報告があった。

3. がん相談件数（1～3 月）

資料 3-1, 3-2, 3-3, 3-4 に基づき、樋口部会長より、各拠点病院のがん相談件数（1～3 月）について、報告があった。

4. 各部会事業の進捗報告について

(1) 【施策 1 関連】地域の療養情報 2015 年版について

大久保委員より、2015 年版が 3 月 31 日に発行され、県より各病院に送付中であるとの報告があった。今回は最低限の改正になり、配付先や配布部数も前年度と同じで、今回の制作及び配布は県主体で行っていただいております、関係各所の所在地や電話番号の修正、若干の制度改正の修正などが行われたとの報告があった。

(2) 【施策 3】2/14 がん患者サロン連絡会について

資料 6 に基づき、大久保委員より、2/14 に患者会合同企画と共同でがん患者サロン連絡会を開催したとの報告があった。患者会合同企画はぴあナースと臨床心理士による講演、及び患者会の紹介、がん患者サロン連絡会は、3 拠点病院の MSW と患者会 5 団体の世話役の方とで総勢 20 名程の参加があった。患者会の世話役の方からは、患者会同士の情報を知った方がいいので、今後このような機会を作っても

らえたら是非参加しますとの声をいただいたとの報告があった。

(3) 【施策3】 3/21 がんピアサロン in ジュンク堂について

資料5に基づき、上原委員より、第2回目のジュンク堂での開催で、今回は脳腫瘍の体験者の方のお話しとフリートークのプログラムで、体験談は約40名の参加、フリートークは約20名の参加があり、書店での開催のため家族連れの参加も多かったとの報告があった。

(4) 【施策3】 小児がん経験者の会 Ti-da わらばーむ交流会について

資料6に基づき、上原委員より、Ti-da わらばーむ交流会は、小児がん経験者の交流を目的に2か月に1回程度開催されており、小児がん体験者の話を聞いたり、子ども達と遊んだりする場であり、次回は5月17日に琉大病院で催されるとの周知があった。

(5) 【施策3】 沖縄県地域統括相談支援センターの相談時間変更のお知らせ

資料7に基づき、上原委員より、4月より沖縄県地域統括相談支援センターの相談体制が変更になり、がんを経験した看護師が3名体制で対応し、毎週（火）13:00～17:00、（水）10:00～14:00、（金）13:00～17:00の時間帯になることが周知された。

(6) 【施策7】 沖縄県がん相談支援マニュアル(小児がん対応用)アンケート調査報告について

資料8に基づき、石郷岡副部長(前任)より、小児がん相談支援マニュアルは、小児がんの子どもやその家族に対し、相談員間で質の揃った対応が可能になる目的で作成され、本マニュアルの使いやすさと普及状況を調査するためにアンケート調査を行ったとの報告があった。

調査対象は市町村などの行政、医療機関、教育機関の保健師・看護師・医師・MSW・養護教諭で、配布数415枚、回収数126枚、回収率30.4%であった。79%の方が1回以上使用しており、色々な情報を知ってもらおうという普及の課題は達成できた。改善点に対する意見として、平成27年1月からの小児慢性特定疾患に関する制度改正に関しての定期更新を求める声が多く、当事者やご家族向けに配布希望の声が多く、今後のワーキングで検討していくこととなった。

樋口部会長より、ワーキンググループへの労いと、改訂や当事者向けマニュアルなどに関しては、改めて次のワーキンググループを編成して行っていくことが了承された。

5. その他

(1) 国立がん研修センター「認定がん専門相談員」開始について

資料9に基づき、樋口部会長より、国立がんセンターの相談員研修が、eラーニングや有料となるとの報告があった。また、「認定がん専門相談員」制度が開始され、研修内容が積み上げ方式で3年更新となっているので、本資料や国がんからの情報を参考にし、計画的に受講して頂きたいとの周知があった。

(2) 那覇市立病院 平成26年度がんフォーラム「がんと就労」について

資料10に基づき、樋口部会長より、2月22日にがんフォーラム「がんと就労」が開催されたが、広報として、那覇市広報誌や琉球新報社による新聞広告が出来たこと、ファシリテーターとして診療科の主

だったがん診療を行っている医師に参加して頂いたことが、那覇市立病院としても画期的だったとの報告があった。また、一部の参加者から、まずは、専門家同士の勉強会・情報共有をした方がよかったのではないかとの意見があったとの報告もあった。

【協議事項】

1. 平成 26 年度の部会事業の評価について

資料 11 に基づき、大久保委員より、大方昨年度の年度末に報告した内容と同じで、ほとんどの事業が完遂できたが、就労支援や満足度調査、相談内容の分析などの事業が目標達成できなかったとの報告があった。

2. 平成 27 年度の部会事業の事業計画について

資料 12 に基づき、大久保委員より、施策アクションプランは 11 施策あり、【施策 1】地域の療養情報がんサポートハンドブックは、大幅改定を予定しており、WG を立ち上げて次年発行に向けて活動する予定であるとの報告があった。【施策 2】相談センターの広報活動（新聞広告、ラジオ特別番組など）は引き続き行っていくこと、【施策 3】患者サロン情報交換会などによる患者会との連携を図ること、【施策 4】就労支援に関する事例検討会、【施策 5】相談センター満足度調査（指標も検討する）、【施策 7】がん相談員対象の研修会（年 3 回開催）を認定相談員向け、及び更新に必要な内容とすること、【施策 8】がん相談マニュアルの作成後の検討は、小児がんマニュアルを作成しアンケート調査報告済みで終了とし、必要があれば後日改訂を検討すること、【施策 9】部会活動の学会報告、【施策 10】セカンドオピニオンアンケート結果の報告、【施策 11】セカンドオピニオンリストの公開、の 10 施策とすることが了承された。なお、【施策 6】相談内容の分析（集計シートの活用）は、削除して県内の相談支援センターマニュアル/内規の整備（改正）に変更することで了承された。

3. 平成 27 年度の部会事業の予算について

資料 13-1, 13-2 に基づき、樋口部会長より、資料 12 の事業計画と連動して予算立てしており、大方昨年度の年度末に報告した内容と同じであるとの報告があった。また、大久保委員より、地域の療養情報がんサポートハンドブックも、別途予算立てをしており、各病院も各々の事業に合わせて予算の執行をお願いしたいとの依頼があった。

4. 平成 27 年度の部会委員, 部会長の選定、及び部会の開催時期について

資料 14 に基づき、大久保委員より、部会員は前年度から引き続きお願いしたく、事業ごとに必要に応じて産業看護師・訪問看護師の方に参加いただく形を取りたいとの提案があった。協議の結果、事業や WG ごとに、社会保険労務士・保健師・訪問看護師の方に声掛けすることが了承された。

今年度からの部会長は、各拠点病院の持ち回りとし、平成 27 年度の部会長は琉大病院から 1 名、副部会長は那覇市立病院から 1 名、中部病院から 1 名の計 2 名とし、持ち帰って院内で調整をしていただくことで了承された。

5. 相談支援部会に関する中間評価指標について

資料 15-1, 15-2 に基づき、増田委員より、がん対策基本計画の中間評価について、相談支援部会の分野における「がんに関する相談支援と情報提供」、「がん患者の就労を含めて社会的な問題」についての中間評価の指標についての提案があった。増田委員より、5年後（平成 30 年 3 月）の目標（分野アウトカム）の中でアウトカム指標となるものの意見をいただきたいとの提案があり、部会案として、以下の【A:分野アウトカム】、及び【B:中間アウトカム】が決定した。

増田委員より、第 2 次がん計画の 2 年～3 年分の中間評価を行いまとめて報告することで、残り 2 年分の計画の修正や、第 3 次の計画に活かせるたたき台となることを想定しているとの情報提供があった。

①「がんに関する相談支援と情報提供」について（資料 15-1）

【A:分野アウトカム】

○がん患者やその家族が、いつでもどこでも適切で質の高い情報の提供や相談が受けられ、不要な心配、悩みなどが解消され、がんと向き合えるようになっている。

【指標】

○がん患者のうち「自分らしい日常生活を送るのに、必要な支援や情報を得られていると思う」と回答した患者の割合

【B:中間アウトカム】

1. 情報提供・相談支援の中期（5 年）ビジョンが策定され、そのビジョンの実現に向けて組織的に活動している。
2. 主治医を含む医療従事者が、患者と家族の不要な悩みが生じないように、タイムリーに必要な情報を提供している。
3. 医療機関では、相談支援センターを中心とする、質が高く活用しやすい情報提供・相談支援体制ができている。
4. 医療機関外では、ピア・サポーター等による情報提供・相談支援体制ができている。

その他に、以下の意見があった。

<B:中間アウトカム（意見）>

- ・B 中間アウトカムの 1. が抽象的なので、具体的な文言にしてほしい。
- ・「中期（5 年）ビジョン策定とその実現」が、PDCA サイクルの回し方や相談支援部会事業との兼ね合いで違和感がある。
- ・それぞれの部会事業が、ビジョンを踏まえてきちんと稼働しているのかも併せて評価したい。
- ・ビジョンイコール、部会のロジックモデルと考えていいのではないか。
- ・1. のビジョンは、2. ～4. のそれぞれが出来ていても、それらが連携していないとまずいので、連携も含めて 2. ～4. をビジョンと考えている。それぞれがきちんと出来ているか、有機的に動いているか、全てを含めて「ビジョン」としている。
- ・個々の病院で活動しているがん相談支援センターの業務が、県全体のがん相談の動きとなるようにしていきたい。

②「がん患者の就労を含めて社会的な問題」について（資料 15-2）

【A:分野アウトカム】

○がんになっても安心して暮らせる社会が構築されている。

【指標】

○拠点病院のがん患者のうち「治療中、社会からのがんに対する偏見を感じた」と答えた患者の割合

【B:中間アウトカム】

1. がん患者とその家族等の経済負担が軽減されている。
2. がん患者・経験者とその家族等の仕事と治療の両立をする力が高まるように、支援が行われている。
3. 国・地方公共団体・関係者、および一般県民が、がんやがん患者・経験者への理解を深めている。

その他に意見があれば、メーリング等で意見交換情報交換を行うことが了承された。

6. 平成 27 年度・平成 28 年度・平成 29 年度の九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラムについて
地域相談支援フォーラムは、規模や実行委員の確保など、内容を吟味する必要や、マンパワー不足も懸念されるので、部会としては、平成 28 年度の応募は見送ることが、協議の上了承された。

7. 次回、平成 27 年度第 1 回相談支援部会開催日について

第 1 候補日： 平成 27 年 7 月 30 日（木）

第 2 候補日： 平成 26 年 7 月 16 日（木）

第 3 候補日： 平成 27 年 7 月 9 日（木）

8. その他

(1) 沖縄県地域統括相談支援センター

上原委員より、沖縄県地域統括相談支援センターの相談も国立がんセンターのシートを使っており、次回の相談支援部会から、拠点病院のがん相談件数の報告と同様、沖縄県地域統括相談支援センターの相談件数の報告も行いたいとの提案があり、了承された。

(2) 琉大病院の就労相談について

松岡委員より、2 月から月 2 回開催されているが、今月までで 4 回の相談があったとの報告があった。

(3) リレーフォーライフの案内

上原委員より、リレーフォーライフが、11 月 14 日 15 日の 2 日間、浦添市でだこホール広場で開催されるので、追って部会や病院にも共催や運営ボランティアなど、ご協力をお願いしますとの依頼があった。